

ご自由にお持ち帰りください

さくらだより



SAKURA

日本医療機能評価機構認定



さくら病院の理念

健・康・通・信

愛の心と確かな医療技術を以って社会に奉仕する。

Vol.41



院長
江頭 啓介

昨年3月11日に東日本大震災が発災して早1年が過ぎました。先日所用で仙台に行く機会がありました。仙台市中は外見上は所々に道路でのこぼこが残るほかは震災の影響はほとんど感じられませんが、一歩郊外や周辺地区に行くと震災の復旧復興はまだ始まったばかりだということがよくわかります。田圃は地盤沈下のため沼地となっており、流され壊れた漁船がそのまま残っていますし、家屋の跡にはコンクリートの土台が残っているのみという荒涼たる光景で、住宅再建は全く行われていません。所々に残された家は損壊しており空き家となっています。海岸近くに行くと、瓦礫がうず高く積み上げられていました。住民の皆さん的生活が平常に戻るには4、5年はかかるとの印象を受けました。私たちは、自分にできる支援を息長く続けて行かねばならないとの強い思いを持って帰つて参りました。

この1年は私たち日本人とはどういう人間か、日本の有るべき姿とは何かについて改めて考えさせられた毎日でした。大震災に遭遇したときの日本人のとった連帶的行動、冷静で節度ある態度は世界の人々を驚嘆させました。大東亜戦争敗戦後、個人主義が浸透し利己的なと言われる日本人の精神性の復活とも思えるものでした。また福島原発の事故は別として、大津波を自然災害と受け止めそれを知恵と工夫を集めて乗り越えようとする人々の態度の基となっている自然観も日本人の特質と言えるでしょう。これら自然への畏敬と、人の絆への気づきは日本人の価値観を変化させ、日本再生への大きなエネルギーになる事でしょう。

病棟案内

1内科病棟

1内科は、急性期病棟です。当病棟は、チーム医療による急性期疾患からの速やかな回復を図り、患者さんやご家族のご要望を確認しながら、今後どのような療養生活がベストなかを共に考え、支援しています。訪問看護との連携を図った在宅復帰・回復期リハビリテーション病棟・緩和ケア病棟など、多くの選択肢があることが特徴となっています。

平均在院日数16日という短期間ではありますが、その間に患者さんやご家族とのコミュニケーションに心掛け、信頼関係の構築に努めています。



2内科病棟

病棟の理念

「患者さんの社会復帰に向けADLとQOL向上を目指したチーム医療に取り組む」

回復期リハビリテーション病棟である2内科は、患者さんのリハビリを中心とした病棟です。医師、看護師、ケアワーカー、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、栄養士などがチームで患者さんのADL(日常生活動作)、QOL(生活の質)向上を目標に取り組んでいます。

高齢者が多いため、日常生活においてのリハビリを大事にしています。病棟スタッフが中心となり、体操・ゲーム・デスクレクレーションや、敬老会等の行事なども行っており、患者さんが楽しくリハビリ、入院生活が送れるように工夫しています。

3内科病棟

3内科病棟は障害者施設等一般病棟です。パーキンソン病や、筋萎縮側索硬化症(ALS)などの神経難病の患者さんや、重症の意識障害のある患者さんを受け入れる病棟です。継続的医療が必要な患者さんにとっては長期入院も可能です。そのため生活の場でもある入院が安心・安楽であるように看護師、介護士、リハビリスタッフが連携をとり看護にあたっています。

入浴や食事介助などボランティアの方も受け入れています。

また、それぞれの患者さんの生活背景にあつた方針決定の為医療ソーシャルワーカーとも連携をとり施設入所や他の病院とも連携を取りながら、日々介護、看護、医療に取り組んでいます。

さくらユニット病棟

さくらユニット病棟は緩和ケア病棟です。主に癌や後天性免疫不全の患者様を対象としています。痛みや、症状緩和、ご家族を含めた精神的ケアを中心に行うために、医師や看護師だけでなく、薬剤師・栄養士・ソーシャルワーカー・臨床心理士などそれぞれの分野の専門スタッフがチーム(ユニット)を組んで、援助・ケアを行っております。

さくらユニットでは患者様の今までの生き方や価値観を尊重し、その人らしい人生をまとうしていただくために、治療が優先されるのではなく、患者様や御家族にとって一番ベストな状態で過ごして頂くように、今を共に生きることを大切にしています。

リスクマネージメント委員会よりの お知らせです。



★指差し呼称確認の徹底（職員のみなさんへ）

今年度リスク委員会では、院内での薬に関する間違いを減らすことを目標に鉄道業界で効果があったとされる指差し呼称確認の徹底に取り組みました。勉強会にて知識と意識を高め、「指差し声だし呼称確認忘れずに!!」を合言葉に確認強化期間に突入、チェックリストを使用して習慣化を目指しました。きっと鏡を見ながら、手のあげ方、指の差し方を練習したスタッフもいたことでしょう。11月の医療安全週間ではリスク委員がキラリと目を光らし厳しく実施状況を確認。その活動の結果は、実施前より間違い発生件数は減少し、目標値達成に至りました。全職員で取り組んだ

成果です!! 安全な医療サービスが提供できるよう、この良い習慣を継続していきましょう。



★注射 採血時の合併症について（患者さまへ）

治療のための注射や検査の採血は医療上必要な行為ですが、100%安全ではありません。針先や薬液が神経を傷つけ、しびれや痛みなどの合併症を起こすことがあります。当院では昨年秋、

再度神経の位置や、より安全に注射できる部位、手技の徹底をはかり、医療安全週間に確認を実施しています。ただ神経の位置は個別差もあり、注射手技が正しくされていても薬液の拡がりにより合併症は引き起こされます。その点に関しまして皆様にご理解を賜りたく、今回どのような合併症があるかなど、ポスターを作成し掲示させていただきました。御確認いただき、ご質問等がございましたら、御遠慮なく医師、看護師へお尋ねください。





福岡市救急病院協会

シンガポール海外救急医療現場研修

医療相談室 小川美和

3内科看護師 坂本 礼

2012年2月9日(木)～2月12日(日)福岡市の救急病院でシンガポールの救急病院の視察研修に参加しました。シンガポールは日本の淡路島くらいの大きさで赤道直下にあり、一年中気温が30～33℃くらいです。シンガポールの医療水準は東南アジア地域ではば抜けて高く、制度・病院といった医療環境もよく整備されていて日本と同じかもしくはそれ以上の医療サービスが受けられるそうです。視察させて下さった2つの病院は国立病院の「ナショナルユニバーシティホスピタル」、民間の「クーテックプーアット病院」はとても親切で清潔できれいな病院でした。国立病院は大学病院で、実際の手術の映像を見ながら数名の研修の医師が実際と同じ医療機器を使って手術の実習ができるように、教育のための設備が充実していることが印象的でした。クーテックプーアット病院は外来が38の専門クリニックに医師がテナントで入っていて病院の設備とスタッフを借りて診察し、入院になると主治医となり外来の医師が朝回診をしているとのことでした。どちらの病院も日本と同じで外部の審査を受けていて、診療室のドアの字が大きくわかりやすいなど患者本位のサービスがいき届いていました。医療費について、全額自己負担の場合と本人が2割負担する場合とあって、政府がお金を補助する場合は医師を選べない。順番を待たないといけないなど、



なかなか治療を受けにくいとのことでした。治療にかかるお金や内容は同じだが、病室も政府の補助の方は冷房が入ってなく、1部屋の患者の数も8人と自己負担は個室～4人でした。日本の保険制度がいかに平等で大事に守っていかなければならない制度であることを痛感しました。自由時間には憧れのラッフルズホテルに勇気を出して地下鉄でお土産を買いに出かけたり、センサート島の水族館やナイトサファリで楽しく過ごしました。シンガポールの人は親切で治安がよく緑が多く快適に過ごすことができ、また行ってみたいと思いました。

平成23年度 さくら病院活動報告

H23年4月	新人才リエンテーション(前期)	
6月	第13回さくらフォーラム (タカラホテル福岡) 消防避難訓練(前期) ボランティアコンサート開催 (東風平高根さん) H23年度1回目 ボランティア・スタッフ (学びと交流のつどい)	
7月	2内科 七夕会	
8月	第12回さくらグループ業務改善コンテスト (山の上ホテル) ビアパーティー(山の上ホテル) H23年度1回目 医療安全管理研修開催	
9月	ISO外部審査受審	
10月	H23年度2回目 ボランティア・スタッフ (学びと交流のつどい) 新人才リエンテーション(後期)	
11月	H23年度2回目 医療安全管理研修開催	
12月	地域モニター会 消防避難訓練(後期)	
H24年2月	さくら病院新年会 H23年度3回目 ボランティア・スタッフ (学びと交流のつどい)	
3月	2内科 ひなまつり会 H23年度3回目 医療安全管理研修開催	

平成23年度 入職者

平成23年4月	6月	12月
市丸 有香	上片野 理恵	坂本 美絵
其田 由美		坂本 利佳
山本 広子		
松嶋 加奈		
中林 裕美		
穴井 りな		
下川 正穂		
長瀬 友幸		
永田 芳崇		
馬場 翔一		
安楽 匠太		
天野 角哉		
糸永 未央		
今隈 希		
野中 弘江		
7月	平成24年1月	2月
	吉澤 由希	奥野 加奈子
	江越 富子	下釜 信隆
		白石 未来
8月	3月	
	山内 めぐみ	
	黒岩 幸	
	戸 雪梅	
10月		
11月		



A B C D

(職員のみなさん) 英会話クラブ

森嶋さえ子



海外旅行に行った事がある人はたくさんいると思いますが旅行先での楽しみは何でしょうか？ショッピング、観光地巡り、食事など様々だと思います。そんな場面の中で、英語を話せたらなあと思った事はありませんか？また、ちょっとした事でも英語が現地の人に通じた時のうれしさ、楽しさを感じた事はありませんか？

英会話クラブではイギリス人のクリス先生がフリートークやプリントを使っての学習の他に、教科書的な会話ではなくネイティブが日常使う自然な会話もたくさん教えてくれます。例えば私の体験からですが、アメリカでマクドナルドに行きハンバーガーを買う時、持ち帰りたい時はTo goを最初に言ってチーズバーガー1つ、コーヒー1つなどと言います。店内で食べる時は最初にHereと言って商品を注文します。ごく自然なネイティブの言い方です。何も言わなければ

Here or to go?と聞かれます。Take outするとはほとんど言いません。

英会話は習いたいけどちょっと不安…と思っている職員の方、昨年から初心者コースを始めました。第1、2、3火曜、18時から30分間です。クリス先生はとても気さくで日本語も話せますので安心です。是非一緒に楽しみましょう。



2内科病棟 ひな祭り会



例年ない寒さが続く中、3月5日2内科病棟の患者さんや他の病棟からの患者さんを迎えて、ひな祭り会を開催しました。

今回は、いつも参加していただけ三線のボランティアさんお二人に二胡演奏の方も参加していただきました。

二胡演奏の「蘇州夜曲」に合わせて歌いだされる男性患者さん、「懐かしい、懐かしい」と大変喜んでいただきました。

スタッフによる「ソーラン節」の踊りに手拍子と掛け声、三線演奏での「炭坑節」に歩行器を使用しながら踊り出される患者さん、スタッフも一緒に踊り、笑い声が会場いっぱいになりました。茶話会では、お菓子を食べて「春を感じられたよ。」「ベッドで横になってようかと思ったけど、参加してよかった、

ありがとう。」など、たくさんの喜びの声をお聞きすることができ、スタッフ一同うれしくなりました。



さくらびようじんの ペコハートじまん たぐい!!

宮田さんちのココアちゃん(ママ)、
ミュウくん(パパ)、モコちゃん(子)

親子3匹でお昼寝中。
いつも3匹一緒です。

石橋さんちの
さくらちゃん

井上さんちの
太郎くん

山内さんちの
トラくん



川西さんちの
あすかちゃん

家族の一員です。とっても
可愛く、芸ができます。



宮田さんちの
メリーちゃん

「暖かいこたつの中、ほくの
新しいおうち。」



小林さんちのちよこちゃん、
ちび太くん、クレースちゃん、茶太郎くん

うつとり(●^o^●)
天使、寝ている時が
一番幸せ♡

中村さんちの
メルちゃん

我が家の人偶。



上片野さんちの
ルナちゃん

来月で4歳になるメスです。
特技はありませんが、おす
わりはずーとできます。甘
えん坊の淋しがり屋です。

三色餃子の焼き加減は、どの
様にいたしましょうか？

江島さんちのシーちゃん、
トンちゃん、クーちゃん

「ノラ猫だけど、優しい
性格とこの顔でおうちに
入れるんだ。爪とぎやイ
タズラはしないよ。外に
出るまでは……。」



